

1924年(大正13年)から1964年(昭和39年)まで運行されていた「ちんちん電車」。

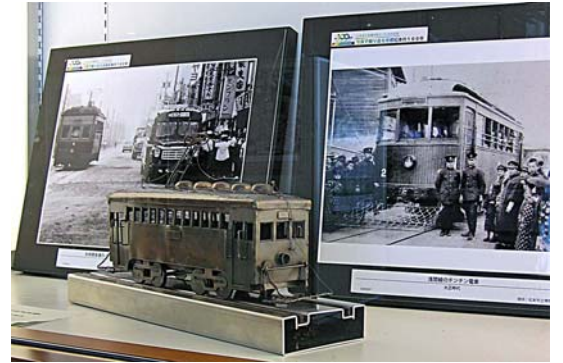
路面電車の復活の思い込め

松本駅前から浅間温泉まで18分で結び、日中は10分間隔で運行されていました。近未来の路面電車(トラム)に思いを馳せ、昔懐かしい路面電車模型を作りました。

松本駅自由通路に展示

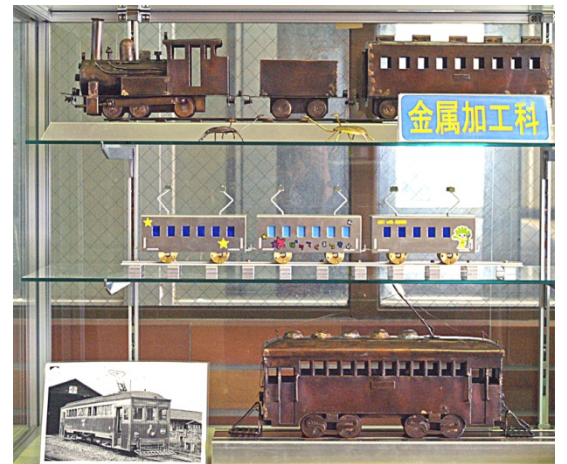
信濃毎日新聞に掲載

2012年(平成24年)4月17日火曜日朝刊第6版第二社会面



平成24年4月1日 ポリテクセンター松本 清水口勝氏寄贈

ポリテクセンター松本
(製作者の職場)に展示



上段：ろう付け機関車
中段：精密板金加工電車
下段：ろう付け路面電車

キラリ

松本市内の職業訓練施設で金属加工の指導員を務める同市蟻ヶ崎の清水口勝さん(64)が銅板などで作った路面電車の模型が、松本駅の自由通路に飾られている。かつて市内を走っていた「松本電鉄浅間線」の車両を再現。「松本も路面電車が復活すれば、渋滞解消や街の活性化につながるのではないか」。そんな思いが込められている。

浅間線は1924(大正13)年開業。松本駅前と浅間温泉を結び、「チンチン電車」と親しまれた。子どものころ、松本駅近くに住ん

路面電車復活の思い込め

でいた清水口さんは、浅間温泉での親類との新年会や野球観戦などの際、父親と一緒に乗った。「走れば追いつきそうなスピードだった」と懐かしむ。車社会の進展とともに乗客が減り、64(昭和39)年、廃線となった。

市内は渋滞箇所が少なくなき、常日頃から何とかならないかと考えていた。昨秋、たまたま友人から海外都市で次世代型路面電車が活躍していると聞き、浅間線の思い出が頭の中によみがえった。模型を作ってみよう。子どもころの記憶はぼんやりとしかなく、インターネットで浅間線の車両の画像を探し、図面を描いた。

持ち前の金属加工の技術を生かし、銅板や銅線などを使って4カ月がかりで2両を仕上げた。高さ8.5センチ、長さ40センチ、幅8センチ。手で向きを変えていたパンタグラフなど細部までこだわった。1両は友人を通じて市に、もう1両は職場に持って行った。

今回、市に寄贈した1両が、駅周辺整備完成を記念して開かれている写真展に合わせて展示されることになった。清水口さんは、駅を行き交う人々が目を留めていると聞き、「興味を持ってもらえてうれしい」。路面電車の走る街を思い描き、もう1両作るうと思っ

(雄)